

外部腐食で減肉したプラント配管の長期延命化 (強度復元・防食・漏れ止め) のご提案

一般的に建設してから年数が経過したプラント配管の外面腐食による減肉の進行速度は 0.5 mm以下/年と言われています。漏洩による緊急停止が発生した場合、生産が行えなくなり、さらに復旧にも費用・時間がかかってしまうため、減肉しやすい箇所には、予防保全が重要です。

外面腐食対策として、再塗装や、FRP 巻き付け、鉄セメント塗布などによる方法がありますが、こういった簡易的な処置では、耐用年数の予測ができないため、いつ減肉箇所から漏洩が発生してもおかしくありません。

コンジットリペアサービスなら・・・

国際規格 (ISO 24817) に準拠した
設計・施工・品質 により、配管の「長期延命化」が可能です！



ISO に準拠した 「設計」

ISO24817 で定められた計算式を使って、補修対象となる配管の減肉度合、必要耐久年数などの条件に合わせて、最適なコンジットの補修範囲と積層数を設計することができます。

ISO に準拠した 「品質」

ISO24817 では、最長設計寿命 20 年を想定しており、その設計に適した高品質な材料を使用して施工をしています。さらに第三者機関による性能検証試験をクリアしておりコンジットリペアの高い品質が実証されています。

ISO に準拠した 「施工」

ISO24817 により、コンジットリペア施工に関わる方法や手順は、徹底管理されています。さらに ISO に定められた社内教育を行い、技能テストに合格した技術員のみによる施工をしています。

**設計条件・耐久年数などを記した
「設計アセスメント」を提出することもできますので、
コンジットリペア施工後のプラントメンテナンス計画に役立てていただけます。**